

“ゆめ風基金・熊本救援募金プロジェクト”／募金用途のご報告（中間報告）

認定NPO法人 ゆめ風基金
代表 牧口 一二

いつも「ゆめ風基金」を応援していただきまして、本当にありがとうございます。

近畿ろうきんの会員労働組合さまはじめ、多くの団体・個人の皆さまからの“ゆめ風基金・熊本救援募金プロジェクト”の取り組みに、改めて感謝申し上げます。

募金の用途につきましては、以下の通り、中間報告をさせていただきます。

これまでの募金（2,276,491円、2016年12月末）につきましては、「被災地障害者センターくまもと」に集うボランティアスタッフの移動や被災障害者の物資運搬を目的とする「車両5台の購入費用」の一部に充てさせていただきました。

※車両2台分相当、右の写真参照



「被災地障害者センターくまもと」は、2016年4月20日、熊本地震により被害を受けた障害者の救援を目的に、熊本県身体障害者福祉団体連合会をはじめとする県下の障害者団体・福祉団体により開設されました。地元団体をベースに、全国から派遣される障害者支援に携わっているボランティア（専門的支援者）により、安否確認、被災によるニーズの確認、相談受け付け、必要な個別の支援など、支援範囲や種類を限定せず、必要なことに最大限対応しています。これまでに対応した障害者はおよそ500人、関西から駆け付けたボランティアの延べ人数は440人にのぼります。



<被災地障害者センターくまもと>

共同代表 松永朗（熊本障害フォーラム代表）

共同代表 倉田哲也（くまもと障害者労働センター）

事務局長 東俊裕（弁護士・熊本学園大学教授）

所在地 熊本県熊本市東区长嶺西 2-6-11

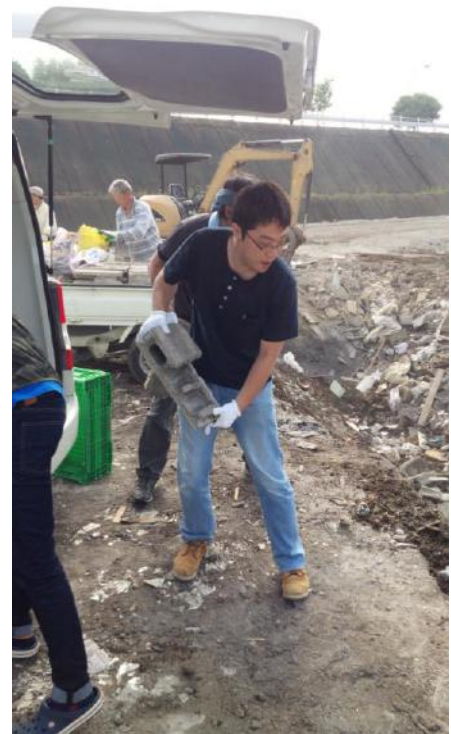
2016年5月と6月、「被災地障害者センターくまもと」では、主に熊本市・益城町・西原村の各避難所に対するビラ配りによる周知活動や被災ニーズ・SOSの確認を行いました。当時避難所は熊本市内には254か所、益城町には12か所、西原村には10か所ありました。いただいた募金で購入したカーナビ付きの車両2台がなければ、県外から駆け付けたボランティアスタッフだけで1日40か所近くの避難所を回することは出来なかったことと思います。

障害のある方からのSOSは、熊本市を中心に益城町、西原村、遠方では宇城市や阿蘇市からの依頼もあります。また、役所への罹災証明書等の手続きの同行や、人手のかかる瓦礫撤去、引っ越し支援にも車両は活躍しています。



阿蘇市の小規模作業所「夢屋」の片付け支援。
車で片道1時間半かかるところの支援ができました（上写真）

車両に瓦礫を積み込み、処理場まで運んでいる様子（右写真）



「被災地障害者センターくまもと」は、今後拠点を益城町に移し、救援活動を続けていく予定です。
現在センターが抱えている課題としては、震災を機に顕在化した障害者ニーズへの対応があり、様々なマンパワーの確保がまだまだ必要な状況にあります。



益城町に建設移転中の
「被災地障害者センターくまもと」

以下、「被災地障害者センターくまもと」の開設を取り上げた記事を2つご紹介します。

被災障害者を支援

当事者と家族ら 組織設立



被災した障害者を支援する会を設立した障害者団体の代表者たち＝熊本市東区

県内の障害者団体や研究者らが20日、熊本地震で被災した障害者を支援するための組織「被災地障害者センターくまもと」を設立した。被災した障害者の困り事などを聞き取り、避難所生活などをサポートする。

身体、視覚、精神、知的など各障害者団体や家族会、学者らで構成。会長にくまもと障害者労働センターの倉田哲也代表、事務局長に熊本学園大教授の東俊裕弁護士が就いた。東事務局長によると、車椅子の場合、避

難所ではトイレに行くことや食料配布に並ぶことが難しく、介助の人手が足りず放置される例があるという。ほかにも障害ごとによまざまな困難な状況があるため、障害者自らが動き、必要な支援を届

けることが狙い。
今後、被災状況を聞き取った上で、必要な支援を把握。専門知識のある支援者やボランティア協力者を募り、資金提供も呼び掛ける。被災した家の片付けなどの生活再建もサポートする。東事務局長は「災害支援の網からこぼれ落ちている障害者が少なくない。当事者自らがやらないと、今困っている人を救えない」と話している。
同センターに近く本部を開設する予定。☎096(234)7728。(中村美弥子)

2016年4月23日(土)
熊本日日新聞より

いま 仲間に手を

障害者自ら拠点

安全確保や生活支援

熊本地震

熊本地震で被災した障害者たちを支援する中、当事者らを中心とした支援拠点「被災地障害者センターくまもと」が熊本市内に開設した。現地では災害弱者を受け入れる福祉避難所が一部しか機能せず、障害者の安全確保も十分できていない。県内にも事務所を開き、全国の障害者団体のメンバーらと連携し、支援の手が届きやすい仲間たちの安全確保や生活支援を本格化させる。(一面参照)



定でパソコンを操作して事務所開設の準備をする「被災地障害者センターくまもと」会長の倉田哲也さん(熊本市東区)で26日午前11時36分

「(家庭環境の危険 福祉法人「くまもと」障 じた市民からの相談がある)判定された」 害者支援センター」の った。 赤紙が撒かれている家 一角を借りて事務所開 名古屋市で障害者支 に入で暮らしている 般の準備をしていたセ 援NPO法人事務局長 んです。どうかして センターくまもとの電 話を務め、支援のため あげられませんか。 が備った。五所に住む 加入りしていた羽田明 24日、同中東区の社 障害者の男性の身家 史さん(49)が男性の自

宅に直行。保健所と連 携して対応策を検討す る道筋をつけた。 被災障害者支援の取 り組めは、ボランティア が活躍した阪神大震 災にさかのぼる。震災 を機に設立された認定 NPO法人「ゆめ風暴 金」(大阪市)が資金 を援助し、全国組織の 日本障害フォーラム (東京都)などが連携 した。 本大震災でも各地に拠 点ができた。

センターくまもと は、幼少期のボリ才能 害が原因で車椅子生活 を送る弁護士で熊本学 園大教授の東俊裕さん (63)らが呼び掛けて発 足。障害者支援センタ ー代表で倉田哲也さん (49)が会長に就き、県 内外の約20の障害者団

体と連携する。東さん は勤務先に掛け合い、 バリアフリートイレな どがある文字ホテルを 使った私設避難所の開 設に力を注いだ。 熊本県によると、熊 本市、益城町、阿蘇市 の3市町だけで、身体 障害者を持つ人は延 べ5万人に上る。 自治体は保健所を避難 所に派遣しているが、 在宅の障害者への個別 訪問まで手が回ってい ない。羽田さんは「障 害者には気持ちをきい てほしい」と訴えている。

り、我慢したりする人 も多いため、行政の支 援からこぼれがちな ところ。 センターくまもと は、安全と避難状況の 確認をめぐり、熊本 8人程度が暮らせる福 泊所も確保して支援体 制作りを進める。自身 も被災した会長の倉田 さんは「厳しい環境に いる仲間がおり、人間 分たりの手で自分たち を守る力を次めた。 連絡先は電話(0966・234・7788)。(山田泰成、写真も)

震度	回
7	2
6	2
5	3
4	3
3	7
2	77
1~3	854
計	948

(27日正午現在)
熊本県を中心とした
地震の回数

毎日新聞4月27日夕刊

被災者救援金受け付け

毎日新聞社と毎日新聞大阪社会事業団は、熊本県を中心に発生した地震の被災者救援金を受け付けます。「熊本地震救援金」と明記して郵便振替か現金書留でお送りください。送料はご負担をお願いします。物品はお受けできません。お名前、金額などを地域面に掲載します。ご希望の方は「匿名希望」と明記してください。 千530-8251(住所不要) 毎日新聞大阪社会事業団「熊本地震」係 (郵便振替00970・9・12881)。

被災者救援金受け付け

毎日新聞社と毎日新聞大阪社会事業団は、熊本県を中心に発生した地震の被災者救援金を受け付けます。「熊本地震救援金」と明記して郵便振替か現金書留でお送りください。送料はご負担をお願いします。物品はお受けできません。お名前、金額などを地域面に掲載します。ご希望の方は「匿名希望」と明記してください。 千530-8251(住所不要) 毎日新聞大阪社会事業団「熊本地震」係 (郵便振替00970・9・12881)。

被災者救援金受け付け

毎日新聞社と毎日新聞大阪社会事業団は、熊本県を中心に発生した地震の被災者救援金を受け付けます。「熊本地震救援金」と明記して郵便振替か現金書留でお送りください。送料はご負担をお願いします。物品はお受けできません。お名前、金額などを地域面に掲載します。ご希望の方は「匿名希望」と明記してください。 千530-8251(住所不要) 毎日新聞大阪社会事業団「熊本地震」係 (郵便振替00970・9・12881)。

「山田泰成、写真も」

「被災者救援金受け付け」

毎日新聞社と毎日新聞大阪社会事業団は、熊本県を中心に発生した地震の被災者救援金を受け付けます。「熊本地震救援金」と明記して郵便振替か現金書留でお送りください。送料はご負担をお願いします。物品はお受けできません。お名前、金額などを地域面に掲載します。ご希望の方は「匿名希望」と明記してください。 千530-8251(住所不要) 毎日新聞大阪社会事業団「熊本地震」係 (郵便振替00970・9・12881)。